

Cisco DNA Center データ移行ガイド

初版：2020年12月10日

最終更新：2022年6月17日

Cisco DNA Center データ移行ガイド

データ移行の概要

このドキュメントでは、Cisco DNA Center を使用してネットワークを管理する場合に適用される可能性のあるさまざまなデータ移行シナリオについて説明し、それらを完了する方法について説明します。

サポートされるアプライアンス

次の表に、データ移行をサポートする Cisco DNA Center アプライアンスを示します。

アプライアンスのタイプ	シスコの部品番号
第1世代 44 コアアプライアンス	DN1-HW-APL
第2世代 44 コアアプライアンス	DN2-HW-APL
44 コア プロモーションアプライアンス	DN2-HW-APL-U
56 コアアプライアンス	DN2-HW-APL-L
56 コア プロモーションアプライアンス	DN2-HW-APL-L-U
112 コアアプライアンス	DN2-HW-APL-XL
112 コア プロモーションアプライアンス	DN2-HW-APL-XL-U

前提条件

このドキュメントで説明されているデータ移行手順を完了する前に、アプライアンスの自動化および保証データをバックアップしてください。移行プロセス中にユーザーが現在のクラスタと新しいクラスタを同時に実行する必要があるシナリオでは、クラスタごとに一意のバックアップパスを提供することをお勧めします。

シナリオ 1 : スタンドアロン Cisco DNA Center アプライアンスをデータセンター間で移動する (同じ IP アドレス)

このシナリオでは、Cisco DNA Center アプライアンスを 1 つのデータセンターから別のデータセンターに移動し、アプライアンスのインターフェイス用に既に設定されているのと同じ IP アドレスを維持します。

手順

ステップ 1 (任意) 最新の Cisco DNA Center リリースにアップグレードします。『[Cisco DNA Center Upgrade Guide](#)』 [英語] を参照してください。

(注) アップグレードする場合は、アプライアンスのデータをバックアップすることをお勧めします。『[Cisco DNA Center 管理者ガイド](#)』の「今すぐデータをバックアップ」のトピックを参照してください。

ステップ 2 アプライアンスの電源を切り、新しいデータセンターに移動します。

ステップ 3 アプライアンスの電源をオンにします。

ステップ 4 Cisco DNA Center とそれが管理するデバイス間の接続が確立されていることを確認します。

(注) 非 AAA Cisco ISE サーバーを実行している展開の場合、システムヘルスツールを使用して、Cisco DNA Center がこれらのサーバーに到達できること、および接続が確立されていることを確認します。

シナリオ 2 : スタンドアロン Cisco DNA Center アプライアンスをデータセンター間で移動する (異なる IP アドレス)

このシナリオでは、アプライアンスのインターフェイスに現在構成されているものとは異なる IP アドレスを使用して、Cisco DNA Center アプライアンスをあるデータセンターから別のデータセンターに移動しています。

手順

ステップ 1 (任意) 最新の Cisco DNA Center リリースにアップグレードします。『[Cisco DNA Center Upgrade Guide](#)』 [英語] を参照してください。

(注) アップグレードする場合は、アプライアンスのデータをバックアップすることをお勧めします。『[Cisco DNA Center 管理者ガイド](#)』の「今すぐデータをバックアップ」のトピックを参照してください。

ステップ 2 アプライアンスの電源を切り、新しいデータセンターに移動します。

ステップ 3 アプライアンスの電源を入れ、設定ウィザードを使用して次を指定します。

- アプライアンスのエンタープライズ、管理、およびインターネットインターフェイスに割り当てる IP アドレス。
- エンタープライズ インターフェイスと管理インターフェイスに割り当てる仮想 IP アドレス。

『[Cisco DNA Center Second-Generation Appliance Installation Guide](#)』の「Reconfigure the Appliance Using the Configuration Wizard」トピックを参照してください。

(注) アプライアンスのクラスタ内 IP アドレスを変更する場合は、最初にアプライアンスのイメージを再作成し、最新のバックアップファイルが作成されたときに存在していた Cisco DNA Center リリースをインストールする必要があります。『[Cisco DNA Center Second-Generation Appliance Installation Guide](#)』の「Reimage the Appliance」のトピックを参照してください。

ステップ 4 設定ウィザードを完了したら、Cisco DNA Center GUI にログインします。

ステップ 5 Cisco DNA Center と Cisco ISE の間の pxGrid 接続を再確立します (前の手順でエンタープライズ インターフェイスの IP アドレスと仮想 IP アドレスを更新したときに切断されました)。

『[Cisco DNA Center Administrator Guide](#)』の「Configure Authentication and Policy Servers」のトピックを参照してください。

(注) 非 AAA Cisco ISE サーバーを実行している展開の場合、システムヘルスツールを使用して、Cisco DNA Center がこれらのサーバーに到達できること、および接続が確立されていることを確認します。

ステップ 6 テレメトリの更新と必要なシステム証明書を再プロビジョニングして、ネットワークのデバイスにプッシュします。『[Cisco DNA Center User Guide](#)』の「Update Device Configuration Using Telemetry」のトピックを参照してください。

(注) 同じアプライアンスを (データはそのままで) 使用しているため、最新のバックアップファイルを復元する必要はありません。

シナリオ 3 : データセンター間でスタンドアロン Cisco DNA Center アプライアンスを移動する (異なる IP アドレス、同じ FQDN)

このシナリオでは、スタンドアロン Cisco DNA Center アプライアンスを 1 つのデータセンターから別のデータセンターに移動しています。アプライアンスは、インターフェイスに現在設定されているものとは異なる IP アドレスを使用します。また、現在の FQDN を引き続き使用します。

手順

ステップ 1 (任意) 最新の Cisco DNA Center リリースにアップグレードします。『[Cisco DNA Center Upgrade Guide](#)』 [英語] を参照してください。

(注) アップグレードする場合は、アプライアンスのデータをバックアップすることをお勧めします。『[Cisco DNA Center 管理者ガイド](#)』の「今すぐデータをバックアップ」のトピックを参照してください。

ステップ 2 アプライアンスの電源を切り、新しいデータセンターに移動します。

ステップ 3 アプライアンスの電源を入れ、設定ウィザードを使用して次を指定します。

- アプライアンスのエンタープライズ、管理、およびインターネットインターフェイスに割り当てる IP アドレス。
- エンタープライズインターフェイスと管理インターフェイスに割り当てる仮想 IP アドレス。

『[Cisco DNA Center Second-Generation Appliance Installation Guide](#)』の「Reconfigure the Appliance Using the Configuration Wizard」トピックを参照してください。

(注) アプライアンスのクラスタ内 IP アドレスを変更する場合は、最初にアプライアンスのイメージを再作成し、最新のバックアップファイルが作成されたときに存在していた Cisco DNA Center リリースをインストールする必要があります。『[Cisco DNA Center Second-Generation Appliance Installation Guide](#)』の「Reimage the Appliance」のトピックを参照してください。

ステップ 4 アプライアンスには同じホスト名とドメイン名を使用しますが、ルックアップエントリに使用される IP アドレスで DNS サーバーを更新する必要があります。

ステップ 5 設定ウィザードを完了したら、Cisco DNA Center GUI にログインします。

ステップ 6 Cisco DNA Center と Cisco ISE の間の pxGrid 接続を再確立します (前の手順でエンタープライズインターフェイスの IP アドレスと仮想 IP アドレスを更新したときに切断されました)。

『[Cisco DNA Center Administrator Guide](#)』の「Configure Authentication and Policy Servers」のトピックを参照してください。

(注) 非 AAA Cisco ISE サーバーを実行している展開の場合、システムヘルスツールを使用して、Cisco DNA Center がこれらのサーバーに到達できること、および接続が確立されていることを確認します。

ステップ 7 ネットワークのデバイスを再プロビジョニングして、テレメトリの更新と必要なシステム証明書をプッシュします (エンタープライズインターフェイスの IP アドレスと仮想 IP アドレスを変更したため)。『[Cisco DNA Center User Guide](#)』の「Update Device Configuration Using Telemetry」のトピックを参照してください。

- (注)
- 同じアプライアンスを (データはそのまま) 使用しているため、最新のバックアップファイルを復元する必要はありません。
 - FQDN は変更されていないため、FQDN を使用する PnP およびその他のユースケースは問題なく動作するはずです。

シナリオ 4 : スタンドアロン Cisco DNA Center アプライアンスをより多くのコア (同じ IP アドレス) を持つアプライアンスに置き換える

このシナリオでは、スタンドアロン Cisco DNA Center アプライアンスをより多くのコアを持つ別のアプライアンスに置き換えています (たとえば、56 コア アプライアンスを 112 コア アプライアンスに置き換えます)。新しいアプライアンスは、以前のアプライアンスのインターフェイス用に設定されたものと同じ IP アドレスを使用します。

手順

ステップ 1 (任意) 最新の Cisco DNA Center リリースにアップグレードします。『[Cisco DNA Center Upgrade Guide](#)』 [英語] を参照してください。

- (注) アップグレードする場合は、アプライアンスのデータをバックアップすることをお勧めします。『[Cisco DNA Center 管理者ガイド](#)』の「今すぐデータをバックアップ」のトピックを参照してください。

ステップ 2 交換するアプライアンスを廃止します。

ステップ 3 データセンターに新しいアプライアンスをセットアップし、以前のアプライアンスにインストールされていたのと同じ Cisco DNA Center リリースをインストールするようにします。また、エンタープライズインターフェイス用に以前に設定されたものと同じ IP アドレスを設定していることを確認してください。『[Cisco DNA Center Second-Generation Appliance Installation Guide](#)』の「Configure the Primary Node Using the Maglev Wizard」のトピックを参照してください。

ステップ 4 以前のアプライアンスで作成されたバックアップファイルを復元します。『[Cisco DNA Center 管理者ガイド](#)』の「バックアップからデータを復元」のトピックを参照してください。

ステップ 5 Cisco ISE との接続を再確立します。『[Cisco DNA Center Administrator Guide](#)』の「Configure Authentication and Policy Servers」のトピックを参照してください。

- (注) 非 AAA Cisco ISE サーバーを実行している展開の場合、システムヘルスツールを使用して、Cisco DNA Center がこれらのサーバーに到達できること、および接続が確立されていることを確認します。

ステップ 6 自己署名証明書がネットワークのデバイスにある場合は、Cisco DNA Center 証明書を更新するためにそれらを再プロビジョニングします。『[Cisco DNA Center User Guide](#)』の「Update Device Configuration Using Telemetry」のトピックを参照してください。

(注) サードパーティによって署名された CA 証明書がネットワークのデバイスにインストールされている場合は、この手順をスキップできます。

シナリオ 5 : スタンドアロン Cisco DNA Center アプライアンスをより多くのコア (異なる IP アドレス) を持つアプライアンスに置き換える

このシナリオでは、スタンドアロン Cisco DNA Center アプライアンスをより多くのコアを持つ別のアプライアンスに置き換えています (たとえば、56 コア アプライアンスを 112 コア アプライアンスに置き換えます)。新しいアプライアンスのインターフェイスは、置き換えられるアプライアンスで使用されていたものとは異なる IP アドレスを使用します。

手順

ステップ 1 (任意) 最新の Cisco DNA Center リリースにアップグレードします。『[Cisco DNA Center Upgrade Guide](#)』 [英語] を参照してください。

(注) アップグレードする場合は、アプライアンスのデータをバックアップすることをお勧めします。『[Cisco DNA Center 管理者ガイド](#)』の「今すぐデータをバックアップ」のトピックを参照してください。

ステップ 2 交換するアプライアンスを廃止します。

ステップ 3 データセンターに新しいアプライアンスをセットアップし、以前のアプライアンスにインストールされていたのと同じ Cisco DNA Center リリースをインストールするようにします。Maglev ウィザードを使用して、次の操作を行います。

- アプライアンスのインターフェイスに新しい IP アドレスを指定します。
- エンタープライズ インターフェイスと管理インターフェイスの新しい仮想 IP アドレスを指定します。

『[Cisco DNA Center Second-Generation Appliance Installation Guide](#)』の「Configure the Primary Node Using the Maglev Wizard」のトピックを参照してください。

ステップ 4 新しいアプライアンスが稼働しているときに、以前のアプライアンスで作成されたバックアップファイルを復元します。『[Cisco DNA Center 管理者ガイド](#)』の「バックアップからデータを復元」のトピックを参照してください。

ステップ 5 Cisco DNA Center と Cisco ISE の間の pxGrid 接続を再確立します (エンタープライズインターフェイスの IP アドレスと仮想 IP アドレスを更新したときに切断されました)。『[Cisco DNA Center Administrator Guide](#)』の「Configure Authentication and Policy Servers」のトピックを参照してください。

(注) 非 AAA Cisco ISE サーバーを実行している展開の場合、システムヘルスツールを使用して、Cisco DNA Center がこれらのサーバーに到達できること、および接続が確立されていることを確認します。

ステップ 6 ネットワークのデバイスを再プロビジョニングして、テレメトリの更新と必要なシステム証明書をプッシュします (エンタープライズインターフェイスの IP アドレスと仮想 IP アドレスを変更したため)。『[Cisco DNA Center User Guide](#)』の「Update Device Configuration Using Telemetry」のトピックを参照してください。

シナリオ 6 : スタンドアロン Cisco DNA Center アプライアンスをより多くのコア (異なる FQDN) を持つアプライアンスに置き換える

このシナリオでは、スタンドアロン Cisco DNA Center アプライアンスをより多くのコアを持つ別のアプライアンスに置き換えています (たとえば、56 コア アプライアンスを 112 コア アプライアンスに置き換えます)。新しいアプライアンスは、置き換えられるアプライアンスで使用されているものとは異なる FQDN を使用します。

手順

ステップ 1 (任意) 最新の Cisco DNA Center リリースにアップグレードします。『[Cisco DNA Center Upgrade Guide](#)』 [英語] を参照してください。

(注) アップグレードする場合は、アプライアンスのデータをバックアップすることをお勧めします。『[Cisco DNA Center 管理者ガイド](#)』の「今すぐデータをバックアップ」のトピックを参照してください。

ステップ 2 交換するアプライアンスを廃止します。

ステップ 3 データセンターに新しいアプライアンスをセットアップし、次のことを確実に実行します。

- 以前のアプライアンスにインストールされていたのと同じ Cisco DNA Center リリースをインストールします。
- 以前のアプライアンスのエンタープライズインターフェイスに割り当てられたのと同じ IP アドレスを使用します。

ステップ 4 新しいアプライアンスが稼働しているときに、以前のアプライアンスで作成されたバックアップファイルを復元します。『[Cisco DNA Center 管理者ガイド](#)』の「バックアップからデータを復元」のトピックを参照してください。

ステップ 5 Cisco ISE との接続を再確立します。『[Cisco DNA Center Administrator Guide](#)』の「Configure Authentication and Policy Servers」のトピックを参照してください。

(注) 非 AAA Cisco ISE サーバーを実行している展開の場合、システムヘルスツールを使用して、Cisco DNA Center がこれらのサーバーに到達できること、および接続が確立されていることを確認します。

ステップ 6 自己署名証明書がネットワークのデバイスにある場合は、Cisco DNA Center 証明書を更新するためにそれらを再プロビジョニングします。『[Cisco DNA Center User Guide](#)』の「Update Device Configuration Using Telemetry」のトピックを参照してください。

(注) サードパーティによって署名された CA 証明書がネットワークのデバイスにインストールされている場合は、この手順をスキップできます。

シナリオ 7 : 3 ノード Cisco DNA Center クラスタをデータセンター間で移動する (同じ IP アドレス)

このシナリオでは、3 ノード Cisco DNA Center クラスタを 1 つのデータセンターから別のデータセンターに (同じインターフェイス IP アドレスを使用して) 移動します。

手順

ステップ 1 (任意) 最新の Cisco DNA Center リリースにアップグレードします。『[Cisco DNA Center Upgrade Guide](#)』 [英語] を参照してください。

(注) アップグレードする場合は、アプライアンスのデータをバックアップすることをお勧めします。『[Cisco DNA Center 管理者ガイド](#)』の「今すぐデータをバックアップ」のトピックを参照してください。

ステップ 2 SSH コンソールから、すべてのアプライアンスで同時に `sudo shutdown -h now` コマンドを実行して、3 つのアプライアンスの電源をオフにします。

ステップ 3 アプライアンスを新しいデータセンターに移動し、電源を入れます。

ステップ 4 Cisco DNA Center とそれが管理するデバイス間の接続が確立されていることを確認します。

シナリオ 8 : 3 ノード Cisco DNA Center クラスタをデータセンター間（異なる IP アドレス）で移動する

このシナリオでは、アプライアンスインターフェイス用に現在設定されているものとは異なる IP アドレスを使用して、3 ノード Cisco DNA Center クラスタを 1 つのデータセンターから別のデータセンターに移動しています。

手順

ステップ 1 （任意）最新の Cisco DNA Center リリースにアップグレードします。『[Cisco DNA Center Upgrade Guide](#)』 [英語] を参照してください。

（注） アップグレードする場合は、アプライアンスのデータをバックアップすることをお勧めします。『[Cisco DNA Center 管理者ガイド](#)』の「今すぐデータをバックアップ」のトピックを参照してください。

ステップ 2 アプライアンスの電源を切り、新しいデータセンターに移動します。

ステップ 3 アプライアンスの電源を入れ、設定ウィザードを使用して次を指定します。

- アプライアンスのエンタープライズ、管理、およびインターネットインターフェイスに割り当てる IP アドレス。
- エンタープライズインターフェイスと管理インターフェイスに割り当てる仮想 IP アドレス。

『[Cisco DNA Center Second-Generation Appliance Installation Guide](#)』の「Reconfigure the Appliance Using the Configuration Wizard」トピックを参照してください。

（注） アプライアンスのクラスタ内 IP アドレスを変更する場合は、最初にアプライアンスのイメージを再作成し、最新のバックアップファイルが作成されたときに存在していた Cisco DNA Center リリースをインストールする必要があります。『[Cisco DNA Center Second-Generation Appliance Installation Guide](#)』の「Reimage the Appliance」のトピックを参照してください。

ステップ 4 アプライアンスのアップグレード後に作成したバックアップファイルを復元します。『[Cisco DNA Center 管理者ガイド](#)』の「バックアップからデータを復元」のトピックを参照してください。

ステップ 5 Cisco DNA Center と Cisco ISE の間の pxGrid 接続を再確立します（エンタープライズインターフェイスの IP アドレスと仮想 IP アドレスを更新したときに切断されました）。『[Cisco DNA Center Administrator Guide](#)』の「Configure Authentication and Policy Servers」のトピックを参照してください。

(注) 非 AAA Cisco ISE サーバーを実行している展開の場合、システムヘルスツールを使用して、Cisco DNA Center がこれらのサーバーに到達できること、および接続が確立されていることを確認します。

ステップ 6 テレメトリの更新と必要なシステム証明書を再プロビジョニングして、ネットワークのデバイスにプッシュします。『[Cisco DNA Center User Guide](#)』の「Update Device Configuration Using Telemetry」のトピックを参照してください。

シナリオ 9 : スタンドアロン Cisco DNA Center アプライアンスを 3 ノードの HA クラスタに変更する

このシナリオでは、2つのノードを追加することにより、スタンドアロン Cisco DNA Center アプライアンスを 3 ノードの高可用性 (HA) クラスタに変更します。

手順

ステップ 1 構成ウィザードを使用して、アプライアンスのエンタープライズインターフェイスに設定する IP アドレスと仮想 IP アドレスを指定します。『[Cisco DNA Center Second-Generation Appliance Installation Guide](#)』の「Reconfigure the Appliance Using the Configuration Wizard」トピックを参照してください。

- アプライアンスのエンタープライズ、管理、およびインターネットインターフェイスに割り当てる IP アドレス。
- エンタープライズインターフェイスと管理インターフェイスに割り当てる仮想 IP アドレス。

『[Cisco DNA Center Second-Generation Appliance Installation Guide](#)』の「Reconfigure the Appliance Using the Configuration Wizard」トピックを参照してください。

(注) アプライアンスのクラスタ内 IP アドレスを変更する場合は、最初にアプライアンスのイメージを再作成し、最新のバックアップファイルが作成されたときに存在していた Cisco DNA Center リリースをインストールする必要があります。『[Cisco DNA Center Second-Generation Appliance Installation Guide](#)』の「Reimage the Appliance」のトピックを参照してください。

ステップ 2 Cisco DNA Center と Cisco ISE の間の pxGrid 接続を再確立します。『[Cisco DNA Center Administrator Guide](#)』の「Configure Authentication and Policy Servers」のトピックを参照してください。

ステップ 3 最初のアプライアンスを最新の Cisco DNA Center リリースにアップグレードします。『[Cisco DNA Center Upgrade Guide](#)』 [英語] を参照してください。

- ステップ 4** アプライアンスのデータをバックアップします。『[Cisco DNA Center 管理者ガイド](#)』の「今すぐデータをバックアップ」のトピックを参照してください。
- ステップ 5** ステップ 5 と 6 を完了する前に、クラスタに追加するアプライアンスのコア数がプライマリノードと同じであることを確認してください。
- (注) 44 コアアプライアンスに関して言えば、第 1 世代の 44 コアアプライアンス (シスコ製品番号 DN1) と第 2 世代の 44 コアアプライアンス (シスコ製品番号 DN2-HW-APL および DN2-HW-APL-U) の両方でクラスタを構成できることを意味します。
- ステップ 6** クラスタ内に 2 番目のアプライアンスを設定します。『[Cisco DNA Center Second-Generation Appliance Installation Guide](#)』の「Configure a Secondary Node Using the Maglev Wizard」のトピックを参照してください。
- ステップ 7** クラスタ内に 3 番目のアプライアンスを設定します。『[Cisco DNA Center Second-Generation Appliance Installation Guide](#)』の「Configure a Secondary Node Using the Maglev Wizard」のトピックを参照してください。
- ステップ 8** 3 つのクラスタノードに同じ Cisco DNA Center リリースがインストールされていることを確認します。
- ステップ 9** HA をアクティブにして、サービスの再配布を開始します。
- メニューアイコン (☰) をクリックして選択します[**System**] > [**Settings**] > [**System Configuration**] > [**High Availability**] の順に選択します。
 - [**Activate High Availability**] をクリックします。

シナリオ 10 : 3 ノード HA クラスタを 1+1+1 ディザスタリカバリに変更する

このシナリオでは、HA が有効になっている 3 ノード Cisco DNA Center クラスタを、1+1+1 ディザスタリカバリがセットアップされたクラスタに変更します。

手順

- ステップ 1** 最新 Cisco DNA Center リリースへのアップグレード『[Cisco DNA Center Upgrade Guide](#)』[英語]を参照してください。
- ステップ 2** クラスタデータをバックアップします。『[Cisco DNA Center 管理者ガイド](#)』の「今すぐデータをバックアップ」のトピックを参照してください。
- ステップ 3** ディザスタリカバリシステムのメインサイトが存在するデータセンターで、メインサイトとして機能するアプライアンスをセットアップします。この目的のために、現在の HA クラスタから 1 つのノードを使用するか、新しいアプライアンスをセットアップすることができます。

(注) 現在使用しているのと同じ IP スキームを引き続き使用する場合は、既存のクラスタとの IP の重複を避けるために、分離されたネットワークにアプライアンスをセットアップします。

- a) HA クラスタのアプライアンスを使用している場合は、それを再イメージ化します。『[Cisco DNA Center Second-Generation Appliance Installation Guide](#)』の「Reimage the Appliance」のトピックを参照してください。

(注) 新しいアプライアンスをセットアップする場合は、このステップをスキップして、ステップ 3b から始めてください。

- b) ステップ 1 でインストールしたのと同じ Cisco DNA Center リリースをインストールします。
- c) ステップ 2 で作成したバックアップファイルを復元します。『[Cisco DNA Center 管理者ガイド](#)』の「バックアップからデータを復元」のトピックを参照してください。

ステップ 4 HA クラスタの 2 番目と 3 番目のノードの電源を切ります（最初のノードはすでに削除されているため）。

ステップ 5 新しく形成されたスタンドアロン ノード クラスタのネットワーク分離を削除します。

ステップ 6 リカバリサイトが存在するデータセンターで、リカバリサイトとして機能するアプライアンス（新しいアプライアンスまたは HA クラスタのアプライアンスのいずれか）をセットアップします。

この手順を完了したら、次のことを確認してください。

- このアプライアンスにインストールされている Cisco DNA Center リリースは、メインサイトのアプライアンスにインストールされているリリースと同じです。
- メインサイトとリカバリサイトのアプライアンスのコア数は同じです。

(注) 44 コアアプライアンスに関しては、第 1 世代の 44 コアアプライアンス（シスコ製品番号 DN1）と第 2 世代の 44 コアアプライアンス（シスコ製品番号 DN2-HW-APL および DN2-HW-APL-U）の両方でクラスタを構成できることを意味します。

ステップ 7 メインサイトとリカバリサイトとは別の場所に監視サイトを設定し、これらの両方のサイトからアクセスできることを確認します。『[Cisco DNA Center 管理者ガイド](#)』の「監視サイトのインストール」のトピックを参照してください。

ステップ 8 1 つのサードパーティ証明書を生成し、この証明書をメインサイトとリカバリサイトの両方にインストールします。これがインストールされていないと、サイトの登録は失敗します。『[Cisco DNA Center Security Best Practices Guide](#)』の「Generate a Certificate Request Using Open SSL」トピックを参照してください。

ステップ 9 ディザスタリカバリを有効にする前に、『[Cisco DNA Center Administrator Guide](#)』の「Prerequisites」トピックに記載されている前提条件が満たされていることを確認してください。

- ステップ 10** ディザスタリカバリシステムを設定します。『[Cisco DNA Center Administrator Guide](#)』の「Configure Disaster Recovery」トピックを参照してください。

シナリオ 11 : 3 ノード HA クラスタを 3+3+1 ディザスタリカバリに変更する

このシナリオでは、HA が有効になっている 3 ノード Cisco DNA Center クラスタを 3+3+1 ディザスタリカバリ設定のクラスタに変更します。

手順

- ステップ 1** アプライアンスを最新の Cisco DNA Center リリースにアップグレードします。『[Cisco DNA Center Upgrade Guide](#)』 [英語] を参照してください。
- ステップ 2** クラスタデータをバックアップします。『[Cisco DNA Center 管理者ガイド](#)』の「今すぐデータをバックアップ」のトピックを参照してください。
- ステップ 3** ディザスタリカバリシステムのリカバリサイトとして、3 ノードの HA クラスタを、それが配置されるデータセンターにセットアップします。
- リカバリサイトのプライマリノードを設定します。『[Cisco DNA Center Second-Generation Appliance Installation Guide](#)』の「Configure the Primary Node Using the Maglev Wizard」のトピックを参照してください。
 - リカバリサイトの 2 つのセカンダリノードを設定します。『[Cisco DNA Center Second-Generation Appliance Installation Guide](#)』の「Configure a Secondary Node Using the Maglev Wizard」のトピックを参照してください。
 - HA のアクティブ化：
 - メニューアイコン (☰) をクリックして選択します[System] > [Settings] > [System Configuration] > [High Availability] の順に選択します。
 - [Activate High Availability] をクリックします。
 - ディザスタリカバリシステムのメインサイトとでリカバリサイトのアプライアンスに同じ Cisco DNA Center リリースがインストールされていることを確認します。また、両方のサイトのアプライアンスのコア数が同じであることを確認してください。
満たす必要のあるすべての前提条件の詳細については、『[Cisco DNA Center 管理者ガイド](#)』の「Prerequisites」のトピックを参照してください。
- ステップ 4** メインサイトとリカバリサイトとは別の場所に監視サイトを設定し、これらの両方のサイトからアクセスできることを確認します。『[Cisco DNA Center 管理者ガイド](#)』の「監視サイトのインストール」のトピックを参照してください。
- ステップ 5** 1 つのサードパーティ証明書を生成し、この証明書をメインサイトとリカバリサイトの両方にインストールします。これがインストールされていないと、サイトの登録は失敗します。『[Cisco](#)

『[DNA Center Security Best Practices Guide](#)』の「Generate a Certificate Request Using Open SSL」トピックを参照してください。

- ステップ6** ディザスタリカバリシステムを設定します。『[Cisco DNA Center Administrator Guide](#)』の「Configure Disaster Recovery」トピックを参照してください。

シナリオ 12 : 1+1+1 ディザスタリカバリを3ノード HA クラスタに変更する

このシナリオでは、1+1+1 ディザスタリカバリ設定のクラスタを3ノードの HA クラスタに変更します。Cisco DNA Center

手順

- ステップ1** ディザスタリカバリシステムを一時停止します（結果として2つのスタンドアロンアプライアンスが作成されます）。『[Cisco DNA Center 管理者ガイド](#)』の「システムの一時的停止」のトピックを参照してください。
- ステップ2** システムを登録解除します。『[Cisco DNA Center 管理者ガイド](#)』の「システムの登録解除」のトピックを参照してください。
- ステップ3** 最初のアプライアンスを最新の Cisco DNA Center リリースにアップグレードします。『[Cisco DNA Center Upgrade Guide](#)』 [英語] を参照してください。
- ステップ4** 最初のアプライアンスのデータをバックアップします。『[Cisco DNA Center 管理者ガイド](#)』の「今すぐデータをバックアップ」のトピックを参照してください。
- ステップ5** 2番目のアプライアンスを3ノード HA クラスタの2番目のノードとして設定します。『[Cisco DNA Center Second-Generation Appliance Installation Guide](#)』の「Configure a Secondary Node Using the Maglev Wizard」のトピックを参照してください。
- ステップ6** 2番目のアプライアンスに、最初のアプライアンスに既にインストールされているものと同じ Cisco DNA Center リリースがあることを確認します。また、コア数が同じであることを確認してください。

(注) 44 コアアプライアンスに関して言えば、第1世代の44 コアアプライアンス（シスコ製品番号 DN1）と第2世代の44 コアアプライアンス（シスコ製品番号 DN2-HW-APL および DN2-HW-APL-U）の両方でクラスタを構成できることを意味します。

- ステップ7** 3ノードの HA クラスタに3番目のアプライアンスを追加します。他の2つのアプライアンスにインストールされているのと同じ Cisco DNA Center リリースと同じ数のコアがあることを確認します。『[Cisco DNA Center Second-Generation Appliance Installation Guide](#)』の「Configure a Secondary Node Using the Maglev Wizard」のトピックを参照してください。
- ステップ8** HA をアクティブにして、サービスの再配布を開始します。
- a) メニューアイコン (☰) をクリックして選択します [System] > [Settings] > [System Configuration] > [High Availability] の順に選択します。

- b) [Activate High Availability] をクリックします。

シナリオ 13 : 1+1+1 から 3+3+1 ディザスタリカバリへの変更

このシナリオでは、1+1+1 ディザスタリカバリ設定を 3+3+1 設定に変更します。

手順

ステップ 1 メインサイトが配置されるデータセンターで、次の手順を実行します。

- a) ディザスタリカバリシステムを一時停止します（結果として2つのスタンドアロンアプライアンスが作成されます）。『[Cisco DNA Center 管理者ガイド](#)』の「システムの一時停止」のトピックを参照してください。
- b) 以前に設定されたすべての設定を削除するには、システムのサイトの登録を解除します。『[Cisco DNA Center 管理者ガイド](#)』の「システムの登録解除」のトピックを参照してください。
- c) 両方のアプライアンスを最新の Cisco DNA Center リリースにアップグレードします。『[Cisco DNA Center Upgrade Guide](#)』 [英語] を参照してください。
- d) 最初のアプライアンスのデータをバックアップします。『[Cisco DNA Center 管理者ガイド](#)』の「今すぐデータをバックアップ」のトピックを参照してください。
- e) 3 ノード HA クラスターの 2 番目のノードとして機能する 2 番目のアプライアンスを追加します。『[Cisco DNA Center Second-Generation Appliance Installation Guide](#)』の「Configure a Secondary Node Using the Maglev Wizard」のトピックを参照してください。
- f) 3 ノード HA クラスターの 3 番目のノードとして機能する 3 番目のアプライアンスを追加します。『[Cisco DNA Center Second-Generation Appliance Installation Guide](#)』の「Configure a Secondary Node Using the Maglev Wizard」のトピックを参照してください。
- g) 3 つのアプライアンスすべてに同じ Cisco DNA Center リリースがインストールされ、同じ数のコアがあることを確認してください。

(注) 44 コアアプライアンスに関しては、第 1 世代の 44 コアアプライアンス（シスコ製品番号 DN1）と第 2 世代の 44 コアアプライアンス（シスコ製品番号 DN2-HW-APL および DN2-HW-APL-U）の両方でクラスターを構成できることを意味します。

ステップ 2 リカバリサイトが配置されるデータセンターで、次の手順を実行します。

- a) リカバリサイトクラスターに追加するアプライアンスに、メインサイトのアプライアンスにすでにインストールされているのと同じ Cisco DNA Center リリースがあることを確認します。また、コア数が同じであることも確認してください。
- b) プライマリノードとして機能するアプライアンスを設定します。『[Cisco DNA Center Second-Generation Appliance Installation Guide](#)』の「Configure the Primary Node Using the Maglev Wizard」のトピックを参照してください。

- c) リカバリサイトの 2 番目と 3 番目のアプライアンスを設定します。『[Cisco DNA Center Second-Generation Appliance Installation Guide](#)』の「Configure a Secondary Node Using the Maglev Wizard」のトピックを参照してください。

ステップ 3 HA をアクティブにして、サービスの再配布を開始します。

- a) メニューアイコン (☰) をクリックして選択します[**System**] > [**Settings**] > [**System Configuration**] > [**High Availability**] の順に選択します。
- b) [**Activate High Availability**] をクリックします。

これらの手順は、メインサイトクラスタとリカバリサイトクラスタの両方で完了する必要があります。

ステップ 4 メインサイトとリカバリサイトとは別の場所に監視サイトを設定し、これらの両方のサイトからアクセスできることを確認します。『[Cisco DNA Center 管理者ガイド](#)』の「監視サイトのインストール」のトピックを参照してください。

ステップ 5 1 つのサードパーティ証明書を生成し、この証明書をメインサイトとリカバリサイトの両方にインストールします。これがインストールされていないと、サイトの登録は失敗します。『[Cisco DNA Center Security Best Practices Guide](#)』の「Generate a Certificate Request Using Open SSL」トピックを参照してください。

ステップ 6 ディザスタリカバリを有効にする前に、『[Cisco DNA Center Administrator Guide](#)』の「Prerequisites」トピックに記載されている前提条件が満たされていることを確認してください。


ステップ 7 ディザスタリカバリシステムを再設定します。『[Cisco DNA Center Administrator Guide](#)』の「Configure Disaster Recovery」トピックを参照してください。

シナリオ 14 : 第一世代の Cisco DNA Center アプライアンスからデータを移行する

このシナリオでは、第 1 世代 Cisco DNA Center アプライアンスから個々の第 2 世代アプライアンスまたは第 2 世代 Cisco DNA Center アプライアンスの 3 ノードクラスタのいずれかにデータを移行します。

始める前に

次の情報を用意します。

- 第 1 世代アプライアンスのインターフェイスに設定されている IP アドレス。これは、第 2 世代アプライアンスで同じアドレスを設定する場合にのみ該当します。
- 第 1 世代アプライアンスにインストールされている Cisco DNA Center パッケージとそのリリース番号のリスト。この情報を取得するには、次のいずれかを実行します。
 - アプライアンスにログインして、**maglev package status** コマンドを実行します。
 - Cisco DNA Center 1.3.3.0 以前の場合は、 > [**About**] > [**Show Packages**] を選択します。

- Cisco DNA Center 2.1.2以降の場合は、ヘルプアイコン (🔗) をクリックし、[About]> [Packages]を選択します。
- バックアップサーバの設定情報。

手順

ステップ 1 第 1 世代アプライアンスで、次の手順を実行します。

- a) アプライアンスの自動化およびアシュアランスのデータをバックアップします。

『Cisco DNA Center 管理者ガイド』の「今すぐデータをバックアップ」のトピックを参照してください。

- b) クラスタからアプライアンスを切断します。

ステップ 2 第 2 世代アプライアンスで、次の手順を実行します。

- a) アプライアンスのインターフェイスに使用する IP アドレスを設定します。

第 1 世代アプライアンスで設定されているものと同じ IP アドレスを使用することも、異なる IP アドレスを指定することもできます。

『Cisco DNA Center リリース 2.1.2 第 2 世代アプライアンス設置ガイド』で、使用する設定ウィザードとアプライアンスのタイプに応じたトピックを参照してください。

- Maglev 設定ウィザードを使用して第 2 世代アプライアンスを設定する場合は、「Maglev ウィザードを使用したプライマリノードの設定」のトピックを参照してください。
- ブラウザベースの設定ウィザードを使用して 44 または 56 コアの第 2 世代アプライアンスを設定する場合は、「ブラウザベースのウィザードを使用した 44 または 56 コアアプライアンスの設定」の章の「拡張インストール構成ウィザードを使用したプライマリノードの設定」のトピックを参照してください。
- ブラウザベースの設定ウィザードを使用して 112 コアの第 2 世代アプライアンスを設定する場合は、「ブラウザベースのウィザードを使用した 112 コアアプライアンスの設定」の章の「拡張インストール構成ウィザードを使用したプライマリノードの設定」のトピックを参照してください。

(注) Cisco DNA Center アプライアンスの高スループット設定に一致するようにアクセススイッチを再設定する場合は、次に示す第 1 世代と第 2 世代のアプライアンスの違いに注意してください。

- 第 1 世代のアプライアンスでは、設定された VLAN がスイッチポートで設定され、アプライアンスの Cisco UCS 仮想インターフェイスカード (VIC) 1227 で設定されたものと一致する必要がありますが、第 2 世代のアプライアンスはネイティブ VLAN のみをサポートします。
- 第 1 世代のアプライアンスはトランク スwitchポートモードのみをサポートしますが、第 2 世代のアプライアンスはアクセス スwitchポートモードのみをサポートします。

- b) 第 1 世代アプライアンスにインストールされている Cisco DNA Center パッケージと同じバージョンをインストールします。

『Cisco DNA Center 管理者ガイド』の「パッケージと更新のダウンロードとインストール」を参照してください。

- c) ステップ 1 でバックアップしたデータを復元します。

『Cisco DNA Center 管理者ガイド』の「バックアップからデータを復元」のトピックを参照してください。

- d) Cisco ISE と Cisco DNA Center を連動させます。

『Cisco DNA Center 第 2 世代アプライアンス設置ガイド』のトピック「Cisco ISE と Cisco DNA Center の統合」を参照してください。

ステップ 3 Cisco ISE が Cisco DNA Center と正しく統合され、ワイヤレス LAN コントローラが動作していることを確認します。

- 1 つの第 2 世代アプライアンスにのみデータを移行する場合は、ここで終了します。
- 3 ノードクラスタを設定する場合は、ステップ 4 に進みます。

ステップ 4 Cisco DNA Center クラスタ内に 2 番目と 3 番目のアプライアンスを設定します。

『Cisco DNA Center 第 2 世代アプライアンス設置ガイド』で次のいずれかのトピックを参照してください。

- Maglev 設定ウィザードを使用して第 2 世代アプライアンスを設定する場合は、「Maglev ウィザードを使用したセカンダリノードの設定」のトピックを参照してください。
- ブラウザベースの設定ウィザードを使用して 44 または 56 コアの第 2 世代アプライアンスを設定する場合は、「ブラウザベースのウィザードを使用した 44 または 56 コアアプライアンスの設定」の章の「拡張インストール構成ウィザードを使用したセカンダリノードの設定」のトピックを参照してください。
- ブラウザベースの設定ウィザードを使用して 112 コアの第 2 世代アプライアンスを設定する場合は、「ブラウザベースのウィザードを使用した 112 コアアプライアンスの設定」の章の「拡張インストール構成ウィザードを使用したセカンダリノードの設定」のトピックを参照してください。

【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意（www.cisco.com/jp/go/safety_warning/）をご確認ください。本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

The documentation set for this product strives to use bias-free language. For purposes of this documentation set, bias-free is defined as language that does not imply discrimination based on age, disability, gender, racial identity, ethnic identity, sexual orientation, socioeconomic status, and intersectionality. Exceptions may be present in the documentation due to language that is hardcoded in the user interfaces of the product software, language used based on standards documentation, or language that is used by a referenced third-party product.

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: <https://www.cisco.com/c/en/us/about/legal/trademarks.html>. Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1721R)

© 2020–2022 Cisco Systems, Inc. All rights reserved.

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。